

# 子どもたちの力を最大限に引き出す校内研究の充実に向けて

～今年度の研究を振り返り、次年度の研究をスムーズにスタートするために～

西部教育局  
お役立ち情報  
令和8年3月号

校内研究の1年間のまとめのこの時期に、その年に実施した学校評価や学力調査・アンケート等を生かした「状況の把握」や「分析・診断」、「課題づくり」までを実施し、学校目標が達成できたかを具現化し、共通理解しておきましょう。

そして、今年度の校内研究の取組によって、授業改善は進んだか、子どもにどんな力が付いたのか、どんなことができるようになったのか等、校内研究のサイクルを全職員で共有し、次年度4月からの新体制での校内研究がスムーズにスタートできるようにしましょう。また、今年度の成果と課題を整理し、年度内に「次年度の校内研究の年間の構想(子どもの実態から見てきた研究の方向性・校内研修の計画・校内授業研究会の日程等)」を考えておきましょう。

## 校内研究のサイクル



**A:Action**  
(改善)  
成果と課題を確認し  
改善を図る

**R:Research**  
(状況把握)  
子どもたちの実態を把握し、  
伸ばしたい力の明確化

**C:Check**  
(振り返り・評価)  
目標に照らした評価  
を行い、仮説を検証  
する



**D:Do**  
(実行)  
仮説を立てて  
実施する

**P:Plan**  
(計画)  
学校教育目標を基に  
した授業研究の目標  
計画を設定

check



- 研究主任だけでなく、チームでの取組になっていますか？
- 成果と課題、次年度の研究主題は全職員で共有できていますか？
- 一人一人が校内研究を自分事として捉えていますか？

⇒年度内に次年度の研究の構想をしておくことで、4月のスタートは新たなメンバーでの「組織づくり」からはじめることができ、早い時期に「実践」に移すことができます。研究の体制を早く確立することで、4月当初は、子どもと過ごす時間が確保できるというメリットもあります。

## 校内研究を組織的に進めるために

1年間のまとめの時期だけ、研究主任一人で研究のまとめを作成するのは大変。もっと周りの人を巻きこむために必要なことは何か考えていきたい。

次年度の研究に向けてデータが大事だと言われたけど、みんなを巻きこみながら分析できる何かいい方法はないかな。

うちの学校では、研究のまとめの作成にあたって役割分担をしているよ。業務を分担していくことも大事だと思う。

そして、次年度に向けて、今年度の課題を整理し、年度当初に成果指標・目標値を設定することで、より客観的な見取りができるということが分かったので、今年度中に成果指標に使えるようなデータは何かを考えておくよ。

先日の研究主任等研修会で紹介されていた「見え～る」の活用も考えてみようかな。



## 研究に活用できる情報館



西部教育局HPやとっとり「学びの部屋」には研究で活用できる情報があります。ぜひ御活用ください。



Googleアカウント  
(@g.torikyo.ed.jp)で  
ログインしてご覧ください。